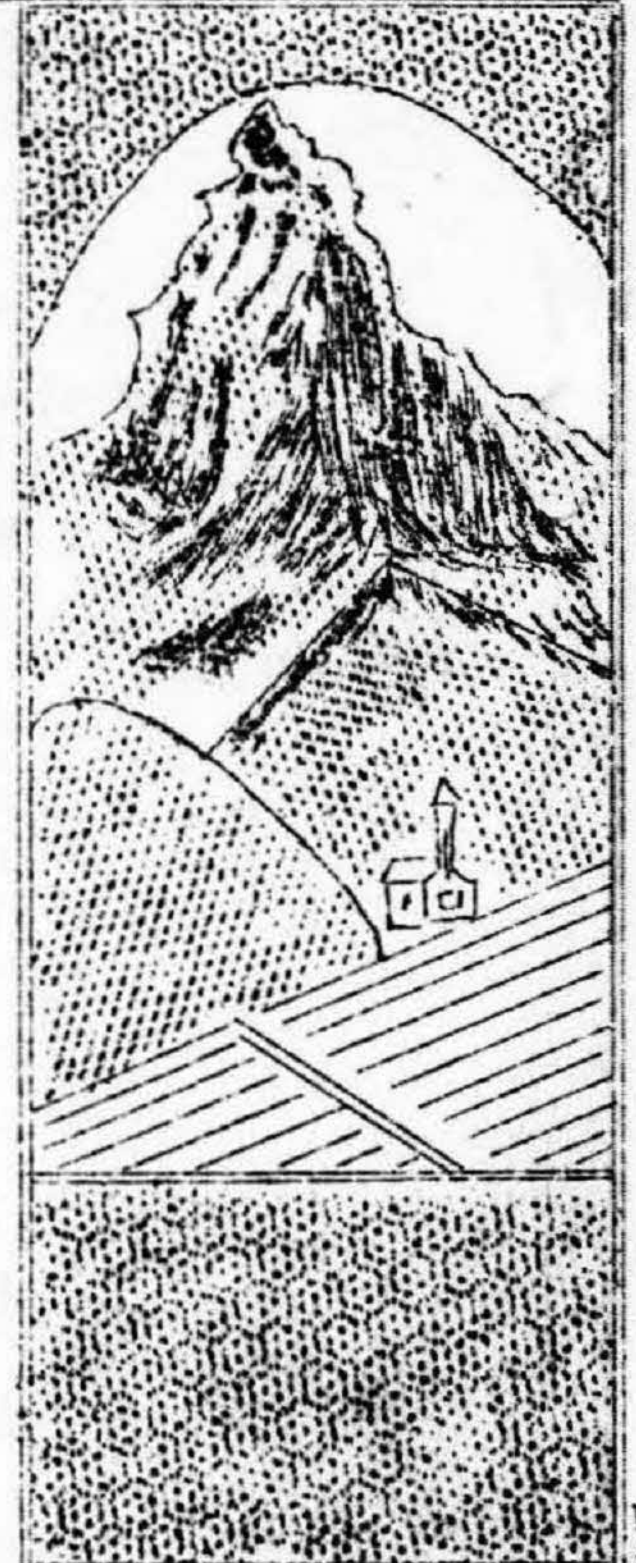




會報

第六年第二号

昭和十年二月一日発行

通巻第四十四号

仲間 の 氣持

ぺんちゃん、謙坊、僕等には昔から悪い癖がある。それは他人に「斯ふ事は云つてはいけない」「斯ふ事はしてはいけない」と云はれると一寸逆を「して見たりし。」「云つて見たりしする悪い癖である。

性根は餘程曲つて居るらしい。と書くときつと「ぺんちゃん」「謙坊」は「それは迷惑至極、親の何かの云々の道連にされては堪へない」と斯うくるに決つて居る。

然し實際は僕等仲間の偽らざる告白であらう。それだから我針葉樹會の先輩たる孫さんの苦勞するものも無理はない。衆人環視の中で孫さんの顔を赤くせしめ青くせしめる位の事は連中平気で云つたりしたりする。薩分厄介な後輩である。過日もさる披露宴の席上で「今日は孫さんの真

似をして居れば叱られる事は絶対ない」と云ふ口の下から人数式しか感つてない「スープリ」の中の鶏の卵を二個頂戴してもよろしいか等と云つて孫さんに睨まれたり「尤も二個頂戴してしまふと丁度最後の順番に當つて居る孫さんは卵なしの「スープリ」になつてしまふ。或は両家結婚披露宴と書いてある立派な献立表をひろげて右側が日本字、左側が英文であつた処からして末席の外国人にも献立の順序が分かる様に英文で入れてある等と云ふ事をいとも平直に簡單に口外した為め又もや孫さんに常識を疑はれたりする。

常識を疑はれても致方がない即ち第一の「オーダーブル」が英訳すると「メンデルスゾーン」の「ウエディングマーチ」になり、車海老の「トマト煮が英訳すると「ワルツ」「ヴァイオレット」になり、「アイスクリーム」が「メンデルスゾーン」の「スプリング・ソング」になつてしまふのであるから大變である。そうかと思ふと何時になく仲間の一人が「うまい事を云つた。即ち飲物は大体其時に出て来る料理に合ふ様に順序が決つて居るから飲物と料理は同じ頃に出されたものを食ひ且つ飲めばよろしいと

云った。是れは確かに仲間の常識から判断して正しいしと思つた。処が最後に「シヤンパン」らしい飲物が料理の方の鶏の肉詰の時に出たので飲んで見た。処味は「シヤンパン」らしい。ので其の仲間尋ねた。処云ひ草がよい。「シヤンパン」はパンと音を立て、抜くから撥に出る安心しろ。「飲んでしまつても差支ないよ」。いや飲んでしまわないでよかつたよ。此処で飲んでしまふものなら孫さんにスモヤ。「それっ」とやられる。処だつた。どうもあんな大切な席上で同志打ちひどいよ金く一寸の油断も出来ないから驚ろく。然し内外の貴顕紳士淑女の中に混つて連中は、どうやら大過なく過した。然し仲間も学窓を離れて早や六七年。中には、早や「係主任」にもならうと云ふ今日此頃に至つて斯の如し、我々の学生時代と思ふべし。と云つた。つて別段我慢にもなんにもならない。が然し仲間とは時々あらゆる世の規範から自由であつた故郷山の麓を憶ひ出して戀しがつて居る。

(裡)

「京都に遊ぶ」

まえがき

半年以上も前から東京の勇士が大挙して関西の吾々になつて居た。夫が予定の九月二十三・四日は心持ちにして居た。夫が予定の九月二十三・四日は主唱者近藤氏の差支えから延期になり十一月の三・四の両日三勇士を迎える事が出来た。既に夫々三勇士から脚色された遠遊談をお聞きの人も多い事でせうが関西出身組の三人會報へのお目見得を兼ねてかくは報告を致す次第。

一、びわこ遊園

がらんとした人影のない大津駅のプラットホームに遠来の友を迎へんと待つ二人の紳士は渡辺九郎氏と私、上りの櫻が東に向ふと、もなく三勇士の便乗車がガタゴトと到着する、どの箱かと四ツの目と足とがキヨロツク、颯と降りて呉る三人は松木村尾近藤の面々何れもなつかしい顔、昨晩からためて居たらしくシヤベルはシヤベルは、浜大津の太湖汽船の発着場まで通行人が振り返り家からは人が飛び出す程に絶え間なく、そして後で云ふ事が、こつちの人は随分静かだね。太湖汽船のステーションで待つうちに、五十嵐、

高木、太田とで顔が揃ふ、赤城さんは出勤した。も同様に不残念總動員と云ふわけに行かなかつた。

ペンちやんが乗り込む時に心細うな顔をしたが何頃あるのか名は平安丸特等室は八人の外に客がなく自然措切りの形、出帆すると船長さんが罷り出て説明をする。だがとても聞きものだ、その中でも明智左馬又介湖水渡りの一席は聞きもした。連中が惜しがってアンコールを望んだ。入船工場を背景にした栗津の晴嵐瀬田の夫婦橋、石山を過ぎて洗堰に着く、此処はもう瀬田川だ、宇治電のダムがあり、船長の言に依れば大阪の水道を取って頂く処だ、上陸して釣をばんやり眺める、馬鹿の見本みたいなのが揃って居る、出帆の時は汽笛で知らせるし特等のお客様決しておいてきぼりにほしない。引返して石山寺、謙三氏安産のお守を買った。やはり靈驗あらたかであると見え間もなく安産の報に接したから今後申込めば御返次をする。

澄み切った秋の空の中を一路北に進み堅田へ向ふ、その間一時間以上中食の御馳走に舌を鳴らしよくシヤベル人下のサロンでねる人様々だ。有名な浮御堂は過日の風害で後形もなくなってしまう

た。今はわづかに石橋を残すばかり、船長はまるで自分のせいみたいにしきりに御詫びを申上げる。風害と云へば會員には被害はなかった様だが到る処大水を創し、風景上の被害は頗る甚大だ。堅田から船は大津へ引返す、寄らないと思つた坂本へ着くと云ふので予定を変更して坂本から敵山を越して京都に入る事にし名残りを惜しむ船長に別れを告げて下船する。

二、敵山越え

日吉神社前でバスを降りお参りをする紅葉には少し早いが大物日の故か賑かだ。関西の日光と云はれる此のお宮は塗り立ての朱も美しい。太閤様が造らしたと云ふ石橋が三つある坂本三橋と云つて国宝だ。

少し歩くとケーブルカー。次第に高くなるにつれてびわこしの大観が開けて来る。数あるケーブルカーのうちでも眺めの美しい方である。車の中で近キヤン威に消化剤の宣傳をして居た、わがわが手帳に書いてもらったが、ヤ、フシイ名前前で忘れた。

ケーブルカーを下りると三又みたいな樺をもつたお婆さんが居て民衆の人の後押しをして居る、だが遠ぢやんに目をつけて威に軟誘したが皆の手前も

もあり遂に拒絶してしまった。

根本中堂大講堂を過ぎ山路を四明岳へ向ふ途中
倒木に風害をしのび、土器投げのつもりで石を投
げたりのどかの限りをつくして四明岳の頂上に着
く。南を向いて石を見れば京都の市街左をみれば
大津の市街から「びわこ」が一望のうちに入る。
愛宕山の肩にまつ赤な夕陽が沈まうとして居る。
流石うるさい勇士連もこの大観には感心したら
しく声もなく見入って居る。
八瀬へのケーブルは流石に混雑を極めた、京都
の街へ出た時は夜だった。

(高瀬)

三、その夜

フアスト・プロオグ

コンチヤンとオーチヤンとそれから今度また
ペンチヤンからと三度紙上でた、かれて、漸く
腰ならぬ筆をあげた無精振り平に御海客被成下
度候

針葉樹會の人となり候而既に一年と十ヶ月、
一度も筆を採らぬ不熱精振りは如何様なる此言
をうくるとも仕様無_レ候へども、筆をもち慣れ
ぬものにとりては、ちつとやそつとでは却々筆

が動き不申—こんな言訳染みたことは抜きにさ
せて頂き、新なる御仲間入りの御手土産として、
いさゝか雑言を並べたを機曾に会員たるの権利
を有効に行使可致所存に御座候
先は仁義旁々如斯御座候

ヒカンド・プロオグ

ウナさんの「京都に遊ぶ」は去年の十二月二
十三日、このあとをかけたつていはゞ天下り
式に渡されたもの、渡されたときは今年中へ即
ち昨年中へには上げて、そごうにキレイにリレ
ーしちあう心組みだったのが、矢張り駄目で今
日まで連引されてゐたもの。小生の次にはそご
うが麗筆を振はれる筈。御期待あれ、!

その夜、南禪寺前の瓢亭で会飲。あつさりした
京料理に舌鼓をうつ。鶏の雑炊はさすが名物だけ
あつて甘味い。誰だつけ、相當ものすごい健啖振
りを発揮した。杯が廻る程に—いつて、そんな
に御神酒を廻したのではないのだが—コンチヤ
ン得意の手相見がはじまる。瓢亭の若い女中さん
をすつかり信用つけさせた腕前なんて物凄いい。云
ひ廻しと云ひ、素振りといひ堂に入つたものだ。
物凄いと云へばあの服付だ。黒の太極の眼鏡の下
に光る眼で、ギョロリと一瞥されやうものなら、

「嘘つきなはれ、阿呆かいなし」とは誰だつて云へやしない。尤も女のNOはYESだからまあよいが、勇敢なのが、かりにもその云つたらば、とつてくはれてしまふだらう。誰だつて「ア、さよか」とだまりこゝつた方が無事だといふことは心得へてゐる。きつとよくあたるといふのもあの眼付がしからしむるに相違ない。そこが、コンチヤンのつけめかも知れない。

あの眼付、あの素振り、あの云ひ廻し、新宿車庫前あたりへ出してはづかしい代物ぢかない。とにかく威服しちあつた。(時々東

京糸を使はして下さい) すっかりい、きもちになつて駄亭を出る。祇園社から四条、新京極、三条へ、所謂お上りさんコース——おつと失禮！こゝは京都の銀座ですぞ！——をとつて河原町三条から円タクを拾つてアドバンスしておいた針葉樹會御定宿、五十嵐旅館へ恥る。

針葉樹會員よ！ 御上洛の節は御恭代御祝儀御宿泊料全庭の五十嵐旅館をお忘れなく、へ決して貰つたわけではないですぞ！。

どやどやと二階の定めの座敷へのりこむ。また鏡舌の連続。すっかり徹ちやん膳をつぶしてゐた。

ウナさんと小生、コンチヤンのピッタリアタルをみてもらつた。年相當にみてもらつた事柄はお嫁さんのこと。ウナさんはこの二月あたりお目出たとかともつともらしく云ふコンチヤン。ウナちやん當つた様な、當らぬ様な額付をする。(果外ピッタリ當つてゐるのかな) こんどは小生、小生には三十までおヨメさんが来ないって、とつてくはれないうちに當つた様な額付をしてひつこんでしまつたが、ピッタリ當つたとしたらつまんないの。

それからまた鏡舌の次響樂——よくしやべるわ。例によつてクスリの話が出る。こんどは関西軍関東へ遠征の話も出る。明日のプランの話も出る。時といふものを忘れた型だ。

どこかでボ——つて汽笛がなる。「やー！ 十二時！」つて誰だかぐ時計をみたら既に二時の丑満時。その瞬間はピッタリした。それをしほに、枕をならべて寝面の中にもぐり込んで、幕、その夜はチヨン

次号にはせ。が麗筆を振つて大原、嵐山行をかきます。希ふ！御期待を。

(DON)

旅の友としての宮川君の思ひ出

大分古い話になるが確か予科一年の頃だ、石神井のバラック校舎の雨天体操場に近い教室の窓際の日當りの席が、私の席であつた、気持ちにあたまのられるので冬の日にはよく船を漕いだものである、宮川君の席は陽の當らぬ暗いところだ、私の右手横方だつた、じろふと居眠りする私をながめてゐた、初めの中は自分の落度を見つけられな様な気がして一寸癪にさはつてゐた、だから余り口もきかず單にクラスに宮川と云ふ色の白い、背の高いのが居る位のところだつた。

二年のスキーシーズンをはかへた夏の日に、私は山岳部の部室に伺候する事になつた、偶然宮川君と一緒だつた、例の何となく陰気な細長い部屋、唯一つの光の窓のところ、部員諸君が縁が靴で削られてサ／＼になつてゐる四角の木火鉢を囲んで背を円くしてゐられた、スキーをしたといふ言上と及ぶと先づ説明心得をきかされたのが増山先輩、清水、太田の両先輩は細部／＼に付言をされた。部室を出て、山岳部で薄気味が悪くな、コワイ様だなど二人でヒソ／＼話し合つたものだ。それがとう／＼汽車に乗り込んで野沢に行

くことになり先ず車中で磯野先輩や中島先輩の勇姿に度膽を抜かれた、今度はゲレンデで又々二人で先輩諸兄の感想談を述べ合つた、一緒にスキーをはじめた故か急に行動を共にする様になつてしまつた、練習の結果はどちらも大したことはない。しかしスタートが一緒だつた結果割合に競争心はなげしかつた、ほんとのところ宮川君も上達は早い方ではなかつた、三四回一緒に折つたが最後の回でさへ前屈みで杖を頼りにする様な滑り方で何時転ぶか／＼が見えてゐる第一に氣になる様な滑り方だつた。そして両方で相手が転ぶのを救へて相互に自負心をつのらせてゐた、他人はほめても決してお互に褒め合つたことはない。何だかさうする事がえらく、相手を褒める事が自分の負けを宣言する様に感じてゐた、今考へれば下らぬことで、いゝところは褒め合へばよかつた。お互が剛情な故であつたらう。

剛情で思ひ出す、立山から駒へ行かうとした夏だつた、藤橋から常願寺川に沿つての道で、ルツクが思の外に重かつたので一行の歩は一向にはかどらぬ。日は次第にくれる。道もさだかでなくなると、心細いこと甚しい、私はいつも欠点だと後で思ひ返すのだが、そんな時に一刻も早く目的地に

つかうとする癖がある、創によつて急ぎ出した。
 一もう少し急がうしと言つた。時に宮川君は大方
 つかれて休息ばかり提案する、そして私にかまは
 ずドッコイと腰を下して動かさない、気がマキ／＼
 する、それでつひ言ひ争になる。君はこゝで野宿
 をしてもよいと云ふ様な事を言ふ、私は宿にせき
 っ、心を抑へかねる、とう／＼先へ歩き出しもう
 一人誰かと立山温泉にたどりつき、宿の者を迎ひ
 にかつたことを憶へてゐる、提灯の光に照されて宮
 川君と選別隊一隊を迎へた時に一寸いゝ気持ちにな
 ったものだ。が御本人はどい風が吹くかと云ふ様な
 会計なことだと言はんばかり、余り落ち着いてゐ
 るので當方が恥しくなつて湯気の中に隠れた話も
 ある、弱々しい肉体のどこにあの気強さがあるか
 と思はれる。何でもガンバリ通す力には敬服の外
 はなかつた、山では上述の様な剛情の点でよく争
 ひもしたものだ。でも長くて二時間位両方が氣ま
 ぐい思をする位で勝に向つて着きどり、又湯にひ
 たつたり、何か其の場の空気を動かすものがある
 とよんだ。氣分はサリと消えた、今まで二人で
 言ひ争をせずすました旅行と言へば夢科へ行つ
 た時位だ。尤も此の時も案外の残雪に苦められて踏
 む一歩、一歩が表面のクラストした部分とボスン

ボスンと打抜いて膝の辺まで雪に没し遂には四ツ
 匍ひになつてゆくと言ふよりは雪の表面に首だけ
 もち上げて匍ふと云つた形容の方が近かつた様な
 状態に達した時、頂上近くで造松の群生に会ひそ
 の裾を迂迴して切目を見出すべきか一挙に雪と造松
 を泳いで一直線に頂上に出るかで一寸雪の中でや
 り合つたが場所がぢつとしてゐられぬ冷たい世界
 なので言葉よりも体を動かしてゐる方が早く何と
 云ふことなしに簡単に片付いてしまつた、他は二
 人の意見全く一致愉快な、しかし後で考へると物
 足らぬ旅だつた、此の夜は宿でユツクリと夜具を
 かぶりながら語り合つた。そして物に対する宮川
 君の意見も随分打ち明けられたが今ははつきりと
 した内容は思ひ出せぬ、たゞ其の時の夜具の襟の
 感触と、顔だけを覗かしてゐた君の様子と、夜具
 にばかされた声音だけがウツスラと憶ひ出の部分
 に属する程度で頭の一隅に残つてゐると云へば云
 へるだけである。翌日は実にいゝ天気で日本アル
 プスの連峰が此の高原より一目に見えた。五月の
 白雪が青い空に浮んで丁度海辺で崩れ立つ波頭を
 臨む様な具合に中部山岳地帯の山々が見えた日だ
 ある。宿の前にプールがある、湯だから泳ぐると
 言ふ。宮川君も僕に泳げと言ふ、寒さうだが難び

込んだ、寒い、君もひっぱり込んでやらうと「泳
げよ」と言ったがニヤ／＼してゐて應じない、ド
テラを着込んで温かさうだ、癪にさはつて飛び出
した、君が海に経験のなかつた事など少しも知ら
ずにゐたので、寒さを嫌つてのことだと思ひ込ん
で、人に泳がせて置いて……と刻の所癪が出かけ
たが、私も「案外温いよ」と云ひ、着物をつけて
からは、「入つてゐる時は少し冷いが着物をきた
後のホク／＼する気持は又格別だ」などと負惜み
を付け足したものだ。

山での思ひ出といつても、さてとなるとなかな
かに思ひ出せぬ。過去に通つた景色の一片を思ひ
出す毎に雲を背景にしたリ、焚火に頬を紅くほて
らしてゐた君を思ひ出す。大抵の山行を共にした
僕には、君は景色の一部分でもある。どれと云つ
て印象の特別に深いものと求められるのは困難で
ある。強ひて云へば前に述べた様な場合ぐらひな
ものである。もう山へも一緒に行けぬのだと思ふ
のは本當に淋しい。

(打橋)

後記

大寒の折祈會員諸兄の御健康をお祈りします。

殊に独身者から妻帯者になられた方々、又は子ッ安
を儲けられた方々には特に御自愛を望んでやみま
せん。悪性の感冒がハヤツテゐる様ですから、
おてお蔭を以て不來者の小生が幾度かの大過を
おみのがし賜はつて、来る三月を以て任期を終る
ことになりました。厚く御禮申上ます。又、會計
幹事の鈴木英雄君も無事に任期を終えられて今回
後任者を左の如くお選みして御承諾を得ました。

會報係 茅川総一君(昭七・大)

會計係 若澤松次郎君(昭七・門)

就いては移月一日以後の御投稿は茅川君宛にお願
ひいたします。ハ東京市杉並區方南町三三〇、
又、竜月七日付で先輩、森竹五郎氏が都合に依り
針葉樹會退會を申出られました。強制がましい事
は當會の禁物ですから氏の自由意思に任せる外は
あるまいと存じます。

會員 太田又一君の轉居先を次に御紹介します。

大阪府中河内郡小阪町上小西八五七
安藤氏方

以 上

(圓山徳三郎)